

平成22年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1494100033	事業の開始年月日	平成19年10月1日	
		指定年月日	平成19年10月1日	
法人名	医療法人社団 昌栄会			
事業所名	グループホーム あいち			
所在地	(〒228-0011) 神奈川県座間市相武台1-4947-10			
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成23年2月27日	評価結果 市町村受理日		

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営法人は、24時間救急体制の病院であり、利用者の容態急変や重度化した場合は、安心して医療の提供が受けられる。建物内部は木造りで、明るく清潔感があり、温かみのある空間となっている。防火設備も整い、全館バリアフリーで、オール電化や床暖房も取り入れ安全である。職員は全員常勤であり、教育、防災、環境、行事、広報、虐待、身体拘束防止等の委員会制度があり、各々責任をもって、役割任務を果たしている。利用者個々の希望実現を図る制度も導入している。利用者優先の理念をきっかけ、職員も内外の研修に参加し、よりよい支援を目指している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル 8階		
訪問調査日	平成23年4月18日	評価機関 評価決定日	平成23年7月7日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】
この事業所は小田急線相武台駅から徒歩約12分の住宅地にある。近くには同法人が運営する相武台病院があり、事業所の協力医療機関になっている。建物は木造2階建てでウッドデッキがある。内部はバリアフリーでエレベーターが設置され、温かみのある空間になっている。理念を基に、否定せず、そのままの利用者の姿を受け入れ、利用者を尊重したケアを行っている。教育委員会や環境整備委員会などの委員会制度があり、職員はいずれかの委員会の委員を担当し、介護の質の向上に取り組んでいる。また利用者に対して「希望を実現する取り組み」を行っている。

【医療、看取りについて】
運営法人の相武台病院から月2回の訪問診療、週2回の訪問看護があり、健康管理を行っている。また訪問診療担当医師により看取りが必要と診断された場合は相武台病院を紹介している。訪問歯科医は週1回、治療、口腔ケアを行っている。

【地域との連携】
北相武台自治会の一員として利用者全員で盆踊りなどに参加している。管理者は年末に近隣へ挨拶回りをしている。自治会の回覧板で事業所の納涼祭など行事の案内をして、地域の方にも参加してもらっている。近隣の方に散歩時などに花をもらったり、声をかけてもらったり、事業所の防災訓練や救急救命法の講習会に参加してもらったりしている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームあいち
ユニット名	ひかり

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念の他に、各ユニットの理念も掲げており、朝の申し送り時に、理念の唱和を行う等、職員全員で理念を共有し、現場での実践に繋げている。	理念は当初のものを職員間で話し合って再構築している。「そのままのあなたでいいのです。私はあなたの味方です」など利用者を尊重した理念を作成している。職員は会議の時などに理念について話し合い、理念を共有している。利用者を否定しないでそのまますを受け入れてケアを行っている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加し、地域清掃や盆踊りに参加している。また、救急救命講習会、防災訓練、事業所の納涼祭等に自治会への参加を呼び掛け、地域貢献や交流を図っている。	北相武台自治会の一員として利用者全員で盆踊りなどに参加している。管理者は年末に近隣へ挨拶回りを行っている。自治会の回覧板で事業所の納涼祭など行事の案内をして地域の方にも参加してもらっている。また、散歩時などに花をもらったり、声をかけてもらっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の実践内容を踏まえ、随時地域の方からの介護及び認知症の相談を受けている。また、運営推進会議では、自治会の代表に参加してもらい、認知症への理解を深めている。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しており、事業所の状況報告、認知症の勉強、防災・災害対策、事業所の問題提起、外部評価の結果報告等多岐にわたり、討議し、事業所運営に活かしている。	運営推進会議は、2ヶ月に1回、家族、自治会長、市介護保険担当職員、地域包括支援センター職員、民生委員などが参加して行われている。会議は事業所の現況報告や非常災害対策などテーマに沿って、参加者と意見交換を行い、それを運営に活かしている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、市の職員も参加し、貴重な連携の場となっている。また、業務上の疑問や問題点等、折に触れ相談し、助言や指導を仰いでいる。	市介護保険担当職員と連携して、入居状況などの報告や相談などを行っている。地震の際には「困ったことはないか」と連絡をしてくれるなど協力的である。市の働きかけで地域密着型サービスの事業所連絡会が立ち上がり、意見交換している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束防止委員会を設置し、身体拘束をしないケアを実践している。ユニットの出入り口は、開放されており、玄関は、安全面に考慮し、施錠する場合もある。</p>	<p>身体拘束は行っていない。身体拘束防止委員が拘束について研修を行っている。居室、ユニットの出入り口は開いている。玄関は利用者が外出して警察の協力を得た事例や、家族の希望もあり、安全のためやむをえず施錠している。外出の気配がある場合は、職員が話に耳を傾け、できるだけ一緒に外へ出るようにしている。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止委員会を設置し、全体研修会で、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、全職員への理解浸透を図り、防止に努めている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者は、成年後見制度、権利擁護について全体研修会等で、その内容を職員に周知徹底し、必要な利用者にはそれらを活用できるように、支援している。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には、事業所の重要事項、理念、看取りを含めた対応可能な範囲について丁寧な説明を心掛けている。また、不安や疑問には、十分な説明を行い、理解・納得を図っている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族の来所時に、気軽に意見を言える雰囲気作りを心がけ、意見や要望を伺うようにしている。また、家族懇親会を開催し、ご家族の意見・要望を聞き、事業所運営に反映させている。</p>	<p>来所時、運営推進会議、家族懇親会（行事の際1～2回）などの際に家族から意見を聞いている。出された意見は、職員と話し合い、できるだけ沿うようにしている。利用者からの「毎日入浴がしたい」という要望に応えた事例がある。</p>	<p>アンケートを作成するなどして、利用者や家族に自由に意見や要望を出してもらい、運営に活かすことも期待したい。</p>

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、面談や会議等で、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、委員会活動の中でも、行事・研修等の企画や提案がなされ、事業所運営に反映している。	職員の意見などは年2回の個別面談、会議などで聞いたり、利用者を受け入れる時にも聞くようにしている。教育、防災、行事など委員会制度があり、職員はいずれかの委員会の委員を担当して企画、提案をするようにしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、日々の業務を通して、個々の職員の努力、実績、勤務状況等を把握し、各自が向上心を持って働けるよう、職場環境の整備に努めている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現任外部研修、交流研修を積極的に実施している。また、内部研修として新人研修と全体研修を行っている。研修受講者は、報告書を提出し、会議で報告し、共有化を図っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県認知症高齢者グループホーム協議会、県央グループホーム協議会、市地域密着型事業所連絡会に所属しており、勉強会や交流研修を通して、同業者と交流・連携に努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前面談は、自宅や病院に訪問し、本人と直接面接し、不安や要望等に耳を傾け、安心の確保に努めている。また、ホームに見学に来てもらい、信頼関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>サービス利用開始段階で、ご家族の思いや不安等を受け止め、納得のいく話し合いを心掛け、ご家族に安心してもらえるよう努めている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談を受けた時点で、本人に必要なサービスを見極め、他のサービスが必要な場合は、必要な支援に繋げている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>職員は、人生の大先輩である利用者から、昔の文化等学びの機会を得ており、励ましの言葉を貰うことも多く、職員は利用者から、常に多くの事を学んでいる。</p>		
19		<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>来所時等に、本人の日頃の様子を、ご家族に報告するようにしており、一緒に考え、情報交換をしながら、共に本人を支えていく関係を築くよう努めている。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている</p>	<p>本人の「希望実現」を応援するプログラムを実施しており、個別に馴染みの場所やお墓参りへ同行している。また、馴染みの人のホームへの訪問を推奨している。</p>	<p>利用者の友人の来所時には、お茶を出すなどして歓迎している。家族の支援で馴染みの理容室や美容室に出かける方もいる。利用者の生活習慣を尊重して、お墓参りに職員が同行する事もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、申し送り等で職員間で共有するようにしている。また、問題があれば、すぐ対応し、利用者同士が関わり合い、支え合えるよう支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設や病院へ移っても、折に触れ、面会に行き継続的なフォローを心掛けている。また、ご家族へも必要に応じ、支援に努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は、常に利用者の意向の把握に努めている。困難な入居者については、表情や態度から読み取るなどしている。また、職員は個別の希望実現にも積極的に取り組んでいる。	利用者は夜勤時などに思いや希望を伝えてくれることが多い。申し送り、会議で把握した内容を他の職員に報告している。把握が困難な方にはよく表情を見るなどして対応している。「温泉に行きたい」など利用者の思いや願いが実現できるように職員は「希望実現プログラム」を作り、年1回以上実現することを目표に取り組んでいる。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前面接で、ご家族や本人からの生活歴、環境、経過等の把握に努めている。また、入所後も生活歴等で分かった事があれば、全職員で共有化を図っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の全体像を把握できるシートを用い、職員が利用者の現状の把握に努めている。また、個別会議等でもチームで同様の現状の把握ができるように工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>毎月のユニット会議で、介護計画書の作成、見直しを実施している。またモニタリングやアセスメントを反映させ、ご家族や主治医の意見を取り入れ、総合的な介護計画としている。</p>	<p>利用者、家族の意見を反映させ、必要な方には主治医、看護師、マッサージ師の意見を聞き、全職員から情報を収集し、介護計画を作成している。介護計画は、通常は6ヶ月ごとに、状態に変化があった場合は随時見直している。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の個別記録の他に、状況の変化があった場合は、経過記録もつけており、職員間で情報の共有化を図りながら、実践や計画の見直しに活かしている。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人や家族の希望に応じ、「希望実現」という取り組みを行っており、個々の利用者の希望に応じ、スタッフが同行し、柔軟な対応を行っている。</p>		
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域のボランティアによる催しや、回想法の会のメンバーによる定期的な集いを実施している。</p>		
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>母体病院の内科医が月2回の往診、訪問看護師の健康管理も週2回実施されている。入居前のかかりつけ医や家族希望の病院を受診する利用者もいる。訪問歯科医も週1回の訪問あり。</p>	<p>入居前からのかかりつけ医、希望する医療機関で受診できる。かかりつけ医での受診は家族の対応になっており、受診結果は連絡ノートに記録している。内科医、歯科医、看護師が定期的に訪れている。母体病院の看護師と24時間連絡が取れる体制である。</p>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、利用者の様子を訪問看護師に伝え相談し、連携を取りながら、利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体病院及び他の医療機関に入院した場合も、医師、看護師、相談室等の病院関係者との情報交換に努め、早期退院に向け相談を行っている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針を作成し、入居時にご家族へ説明し、同意を得ている。ホーム内での看取りは行わず、母体病院の往診医が終末期と判断した場合は病院への入院紹介を行っている。	事業所では看取りは行わず、看取りが必要と診断された場合は、同法人の相武台病院を紹介している。職員はターミナルケアについての研修を行っている。前年度の目標達成計画に掲げていた「看取りに関する指針」を作成した。看取りのための入院判断基準があり、家族に説明して同意を得ている。本人、家族から重度化した場合の希望を聞き、状態に応じて医師や家族と面談を行っている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内で、消防署の協力を得て、定期的に救急救命講習会を開催している。全体研修会でも、急変や事故発生時に備え、共に学び、実践力を身につけている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署や自治会の協力のもと、年2回防災訓練を実施している。その他に自主防災訓練を隔月で行っている。非常食や飲料水などの備蓄も完備している。	年2回消防署の協力を得て利用者、職員、近隣の方（1回）と一緒に防災訓練を行っている。利用者と自主防災訓練も行っている。災害に備えて水、米、レトルトのご飯、缶詰などの食料品、カセットコンロ、オムツなどを備蓄している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者への声掛けにも気を配り、プライバシーの確保や羞恥心への配慮を心掛けている。また、申し送りは部屋番号で行い、チェック表はインシタルで表すなど工夫している。	毎月、人格の尊重などについて研修を行っている。管理者は職員に、利用者に対して人生の大先輩という気持ちを持ち、尊敬の念を忘れないように話している。トイレ、入浴時の対応に気をつけている。個人情報には鍵のかかるキャビネットに保管している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、自己決定できるように働きかけ、入浴等も無理強いせず、対応するようにしている。本人の思いや希望の表出が難しい利用者も思いをくみ取るようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人のペースを大事にしている。散歩やレクリエーション等も決して強要せず、その人のペースに合わせて、柔軟に対応している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ホームでも、今まで通りのおしゃれをしてもらえるよう心掛けている。希望者には出張理・美容を利用してもらったり、家族による髪のカットを定期的に受けている利用者もいる。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は、できる範囲で、調理、配膳、片付け等行っている。職員も同じものを一緒に食べている。誕生日には、好みの料理を作り、月1回程度外食で好きなものを食べてもらっている。	訪問時、利用者はおかずなどの盛り付けや食後の下膳をしていた。利用者と職員は同じ食事をテーブルを囲んで静かな雰囲気の中で食べていた。誕生会、ひなまつりなどの行事には利用者から希望を聞いて好みの献立にしている。誕生日にはケーキでお祝いをしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>日々の食事は、栄養士によるバランスのとれた献立となっており、食事や水分の摂取量も日々把握している。利用者個々に応じて、おかゆや刻み食の対応もしている。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後口腔ケアを実施し、その際専用の口腔内ブラシも併用している。また、個別に歯科衛生士による定期的な口腔ケアを利用している者もいる。義歯は就寝前に預かり、洗浄している。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>トイレでの排泄を基本とし、利用者個々に排泄パターンを分析し、把握し、支援している。入院時にオムツ使用になった利用者が事業所に帰り、布パンツに戻る等の成果も出ている。</p>	<p>必要な方には排泄チェック表を作成してトイレ誘導をしている。職員は自主的に1日オムツを使ったり、車椅子で過ごすなどの体験を行い、利用者の気持ちを体験する研修を行った。利用者は全員、昼間はオムツをしないでパットなどを使用し、夜間はオムツを利用するなど工夫している。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>便秘予防の為、水分摂取量を記録し、飲食物の工夫もしている。また、体操、散歩、家事活動等、身体を動かす機会を設け、自然排便を促している。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>週3回、午後の時間帯での入浴を原則としているが、希望があったり、失禁時は柔軟に対応している。入浴したくない利用者には無理強いせず、職員や時間を変えたりして対応している。</p>	<p>週3回、13:30～15:30位の入浴が原則になっているが、希望にあわせて柔軟に対応している。現在、要望により毎日入浴している方もいる。季節のゆず湯などを楽しんだり、歌を歌いながら入浴することもある。</p>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を大切に、昼食後の休息が必要な利用者には、声掛け、誘導を行う等工夫している。夜間も安眠できるよう、定期的なりネン交換、温度、湿度の調整等マメに行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の薬の情報がファイリングされており、職員が内容を把握している。服薬確認は二重チェックをかけ、症状の変化があった場合は、医師や看護師に連絡している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人が張り合いを持って過ごせるよう支援している。お茶、絵画、習字、読書、園芸等個々の楽しみを継続して行えるようサポートしている。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の状態に合わせ、散歩、買物等を行っている。また、利用者や家族の意向を聞き、個別対応での外出支援も行っている。外食を兼ねた外出行事は概ね月1回実施している。	天気の良い時は毎日外出していたが、現在は地震の影響で外出の機会が少なくなっている。散歩に行ったり、おやつを買いに行ったり、お茶を飲みに出かけている。イチゴ狩り、花見など行事の様子がアルバムにより確認できた。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額のお金を預かっており、利用者にはいつでも使える旨を伝えている。また、買い物に行った時は、可能な場合は本人に払ってもらっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個別対応となっており、ご家族の了解が得られれば、電話や手紙のやり取りができるよう支援している。また、ご家族等からの電話や手紙も同様に取り扱いしている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物内部は、木造りで温かみのある空間となっている。居間には季節の花や写真等を飾り、温度や湿度、光彩にも気を配っている。また、花壇には季節の花を植えている。	玄関そばの花壇は手入れされ、パンジーなど季節の花が咲いていた。居間は床暖房になっており、ソファやテレビなどが配置され、ゆっくり過ごせるようになっている。ユニットのアルバムは手に取れるように置いてある。	
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファや玄関前の椅子、ウッドデッキのベンチ等居場所作りをしており、思い思いに過ごせるようにしている。また、1～2階のユニット間の出入りは自由にしている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れたタンス、鏡台、家族の写真、花、仏壇、マスコット等が置かれ、利用者が居心地良く暮らせる空間となっている。また、専用の洗面台も設置してある。	各居室には洗面台とクローゼットが設置されている。仏壇、鏡台、テレビ、家族の写真、防災頭巾などを思い思いに持ち込み、居心地良く過ごせる環境になっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーであり、利用者の状態に合わせ、常に居住空間の見直しも行っている。手すりの増設、ポータブルトイレや車椅子の導入、浴用イスの見直し等も行った。		

目 標 達 成 計 画

事業所名

アール・アール・あいち

作成日

平成30年7月22日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	運営に固執する利用者や家族の声が運営に反映されにくい。	アンケートを作成し、利用者や家族に自由に意見を述べてもらう。運営に活かす。	家族懇親会を設け、アンケートを行う。運営に反映させる。	1ヶ月
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。